

## 活動報告

年次報告書「Childline Annual Report 2025」ができました。冊子をご希望の方は事務局まで。当会ホームページでもご覧いただけます。



## チャイルドラインとすすめよう 「包括的性教育推進キャンペーン」 賛同者募集

チャイルドラインには、人間として幸せに育つための教育の不足を感じる子どもの声がたくさん届いています。「包括的性教育」は子どもや若者が自分の人生と健康を守り、他者を尊重しながら生きていくために必要な知識・態度・スキルを、年齢に応じて体系的に学ぶ教育のことです。性を「生殖の知識」だけではなく、人権・健康・関係性などを含む“人生全体に関わるテーマ”として扱う生きるための教育です。



### 賛同団体募集

第1次締め切り：2026年1月5日

主催・問合せ：チャイルドライン  
支援センター

### キックオフイベント

日時：2026年2月11日（水・祝）  
14時～  
場所：国立オリンピック記念青少年  
総合センター

thank  
you

## ご支援・ご協力 ありがとうございます

子どもたちの生きやすい社会をめざし活動するチャイルドラインへのご支援をこれからもよりしくお願いいたします。

●2025年3月～10月のご寄付総額

8,683,161円

ゆうちょ  
銀行

振替口座 00120-5-425245  
(019支店 当座0425245)  
口座名 NPO法人チャイルドライン支援センター

※当団体は東京都の認定を受けています。ご寄付いただくと所得税や法人税の控除を受けることができます。  
(内閣府HP <https://www.npo-homepage.go.jp/>)

Yahoo!  
ネット  
募金

募金サイト  
<https://donation.yahoo.co.jp/detail/5452001>

※Yahoo!ネット募金とは、さまざまな社会課題の解決を目的にヤフー株式会社が運営する寄付のポータルサイトです。クレジットカードやTポイントによる寄付に対応しています。



## フリーダイヤル、ネットでんわ、 オンラインチャット、つぶやく実績報告



●フリーダイヤル ※NTTコミュニケーションズ トラヒック調査ツールより

2025年3月～9月	当期	前年同期比
発信数	199,101件	+5,442件
着信数	104,185件	+10,359件
着信率	52.4%	+3.9ポイント
平均通話時間	4分31秒	-11秒
総通話時間	7,847時間	-11時間

●ネットでんわ ※チャイルドラインアプリのシステムから自動集計

2025年3月～9月	当期	前年同期比
発信数	802件	-1,259件
着信数	704件	-1,150件
着信率	85.5%	-4.1ポイント
平均通話時間	5.5分	+3分25秒
総通話時間	28.3時間	-18.7時間

●オンラインチャット ※チャットシステムALBISのレポート解析結果  
およびチャイルドラインデータベースより

2025年3月～9月	当期	前年同期比
訪問人数	134,926件	+54,330件
書込件数	32,429件	+7,455件
対応件数	11,235件	+966件
対応率	35.4%	-6.7ポイント
平均対応時間	38分53秒	+1分12秒
対応時間	7,310時間	+839.3時間

●つぶやく

2025年3月～9月	当期	前年同期比
投稿件数	7,623件	-1,127件

## 編集後記

◆おとなは、データとして塊になりそうな声を拾いがちですが、今号は、たったひとつの声でも、取り上げるべきものがあるのではないかと、という視点で編集しました。こどもひとりひとりの多様な気持ちに寄り添える社会になることを願っています。（S.M）

特定非営利活動法人（認定NPO）

チャイルドライン  
支援センター

ニュースレター

vol.

151



18さいまでの子どもがつながる  
チャイルドライン。

## 巻頭言

# チャイルドラインに届く 子どもの VIEWS

ビューズ

— 小さな声が教えてくれること

## そばにるようにつながる

「誰にも言えないことがある…」 「親に心配をかけたくない…」 「ただ、話を聴いてほしいだけなんだ。」 そんな声が日々届いています。電話やチャットでは姿が見えませんが、その瞬間、子どもと時間を共有し、そばにるように思えます。受け手は子どもと同じ目線で寄り添うことを心がけていますが、無意識に上から見てしまうこともあるのではないのでしょうか。「かけ手の子どもには、今どんな世界が見えているのだろう」と、受け手自身想像しながら耳を傾ける姿勢が欠かせません。

## 言葉になりにくい思いを聴く

子どもが届けたい声を、おとなは十分に受け取れているのでしょうか。沈黙や言いよどみのかたちで現れることもあります。どのようなかたちで届くにせよ、その中には確かな思いが込められています。受けとめにくいサインを見逃さず、子どものリズムに合わせて耳を傾け、ありのままの思いを尊重することが大切です。

2025年度、つながった動機の約82%が「話を聴いてほしい」でした。子どもたちはおとなに答えを求めているのではなく、気持ちを受けとめてほしいと願っています。この数字を見ると、声を丁寧に聴くことの必要性を強く感じます。おとなもかつて子どもでした。友だちとの関係、家族の中での居場所、学校での体験、うれしさや楽しさ、不安や孤独。そうした気持ちを思い返すと、今の子どもの声が一層切実に響きます。

## データの陰にある小さな声

チャイルドラインに届く子どもの声は、年次報告で統計としてまとめられ、四半期ごとには特定のテーマを設定して分析・報告されています。こうした数字やテーマは、子どもの声の状況や社会の課題を映し出す重要な手がかりとなります。しかし、数字に表れる声だけがすべてではあり

ません。統計に表れない埋もれている小さな声、私たちが見過ごしている声があるのではないのでしょうか。そこにこそ、社会が向き合うべき現実が潜んでいるのかもしれない。

## 声を社会へ

子どもの権利条約第12条は、子どもが自分のviewを自由に表明する権利を定めています。ここで使われているのは「opinion（意見）」ではなく「view（見る、見え方、感じ方）」です。「子どもにとってどう見えているか、どう感じているかを大切にしよう」—それが第12条の主旨です。子ども一人ひとりに異なる多様な見え方、感じ方があります。しかし現実には、おとな中心のアダルティズムが根強くあり、子どもの声は「小さなもの」とされ、権利の主体である子どもが脇に追いやられているのではないのでしょうか。私たちチャイルドラインは、子どもと社会をつなぐ架け橋です。届いた声を分析し社会に返すことはおとなの気づきとなり、同時に子どもに「声を出していいんだ」と思ってもらえることにもつながります。

## 小さな声が教えてくれること

小さな声は、私たちに「子どもとどう向き合い、どのようにその声を聴くのか」を問いかけています。その声に耳を澄ますとき、子どもが安心して生きられる社会をつくる手がかりが見えてきます。そして小さな声が教えてくれるのは、子どもがおとなと同様に権利を持ち、ひとりの主体として尊重され、社会をともに創っていくパートナーであるということです。だからこそ、私たちは共に耳を澄まし、力を合わせて、子どもが生きやすい社会を築いていかなければならないのではないのでしょうか。

チャイルドライン支援センター  
常務理事

根本 賢一



発行日：2025年12月15日

発行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター（認定NPO）

〒162-0808 東京都新宿区天神町14神楽坂藤井ビル5階 TEL：03-5946-8500 FAX：03-5946-8501

URL：<https://www.childline.or.jp/> E-mail：info@childline.or.jp





データベース  
分析2025子どもの  
『気持ち』は  
どんなもの  
がある？

# 子どもたちの 項目に当てはめることのできない 気持ちと表現

— チャイルドラインデータベース2024年度集計より

「チャイルドライン」では、電話やオンラインチャットで受けとめた子どもの話を、受け手が感じた印象をもとに、個人を特定しない形式で、1件ごとにデータベースに集積しています。

項目のひとつに「**子どもが発した気持ち**」があり、「不明」「その他」を含めて全部で23種類（項目）の「気持ち」を設けています。今回は「**その他**」として分類されている「**さまざまな気持ち**」について、どのような表現があるのかを調べ、複雑で多様な子どもの世界を、少しのぞいてみたいと思います。

1

集計する「気持ち」全23項目のうち、  
上位9項目が  
全体の75%を占めます。

「気持ち」の既存項目の割合を集計すると、多いものから「不安」「困惑・困っている」「つらい・苦しい」「イヤだ」「葛藤・迷い・戸惑い」「怒り・いらだち」「うれしい・たのしい」「孤独・寂しさ」「憂鬱」と続き、それら9項目が75%を占めることがわかりました（2024年度）。なお、右のグラフの「その他の項目」（25.3%）にあるのは、「悲しい」「自分に自信がない」「恐怖・怖い」「楽しみ・期待」「くやしい」「疲れ」「人目が気になる」「あきらめ」「満足・充実感」「傷つきたくない」「幸せ」「傷つけたくない」「不明」「その他」（※2と3参照）です。それぞれ2.3%以下となっています。

上位  
9項目

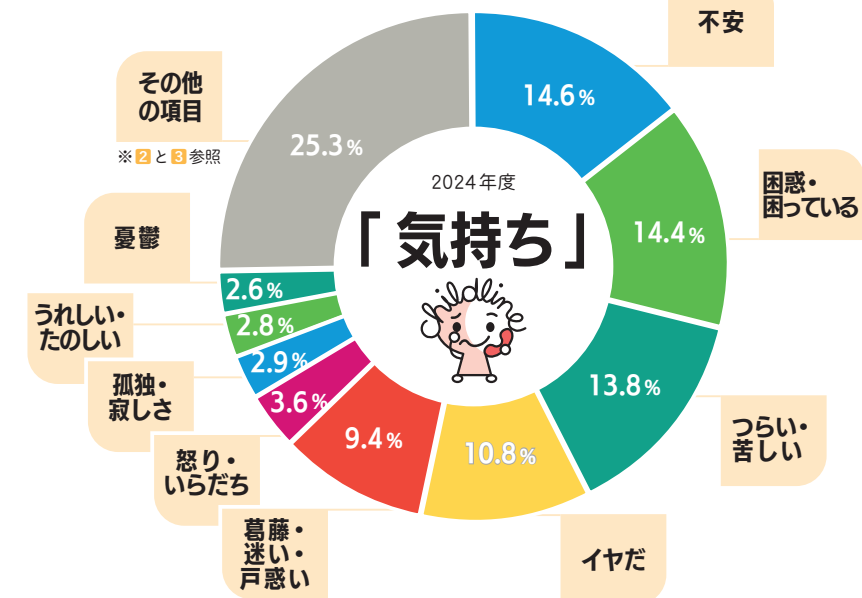
気持ち1位. **不安**  
気持ち2位. **困惑・困っている**  
気持ち3位. **つらい・苦しい**  
気持ち4位. **イヤだ**  
気持ち5位. **葛藤・迷い・戸惑い**  
気持ち6位. **怒り・いらだち**  
気持ち7位. **うれしい・たのしい**  
気持ち8位. **孤独・寂しさ**  
気持ち9位. **憂鬱**

2024年度集計

75%を  
占める！

子どもが発した気持ち（2024年度）

全体 n=50,826



3

子どもが伝えてくる気持ちのニュアンスの違い

多様な  
気持ち！

「その他」に分類された「気持ち」のうち、さらに少数の声にも注目してみると、複雑で多様な子どもの世界が見えてきます。既存の項目に近い表現も多く見られますが、具体的な話の中で、「微妙に当てはまらない」と受け手が解釈し、集計の際に「その他」に入れることが選ばれたものです。

後悔と反省	死にたい(気持ち)	悩んでいる	たいくつ	うらやましい	ムラムラ	気になる	しんどさ
知りたい	殺したい(気持ち)	不満	どうしたら	疑問やなぜ	興味	好き	つまらない
ドキドキ	許せない(気持ち)	わからない	ショック	気まずい	やる気が出ない	びっくり	緊張
興奮	あせり	むなしい	性のことで気になる	不思議	イライラ	消えたい	残念
ふざける	落ち着かない	痛い	やばい	落ち込む	自己否定(の感じ)	感謝	変
気持ち悪い	キツイ	きらい	甘えたい	あこがれ	スッキリ	おもしろい	気分が悪い

ほかにも・・・ 「うしろめたい」「いっぱいいっぱい」「うざい」「うっとおしい」「うんざり」「おちつかない」「がっかり」「かっこいい」「カッコ悪い」「がまんできない」「ざわざわ」「しっくりこない」「ジレンマ」「さすががいい」「すごい」「切ない」「そわそわ」「なげやり」「なるほど」「にくい」「ニヤニヤ」「ねむい」「馬鹿馬鹿しい」「はがゆい」「パニック」「ひどい」「ふわふわ」「ぼーっと」「ほっとした」「褒められたい」「めんどろ」「もどかしい」「もったいない」「やめたい」「やめられない」「やらなさや」「やるせない」「よかった」「わかって」「わくわく」「安心」「穏やか」「かわいそう」「おかしい」「懐かしい」「がんばる」「詰んでいる」「狂いそう」「嫉妬」「決意」「限界」「恨み」「混乱」「参った」「仕方ない」「わからない」「自慢」「暑い」「傷ついた」「なさけない」「勇気がない」「生きづらい」「疎外感」「喪失感」「憎しみ」「残念」「仲直りがしたい」「動揺」「不快」「負けたくない」「複雑」「物足りない」「満たされない」「迷惑をかけたくない」「悶々」「理解したい」「できない」。

今回、「その他」で整理した気持ちは、「オノマトペ」だけではない表現が多く含まれています。これは、受け手側が考えた上で記録している言葉であり、名詞や身体感覚・こころの状態・行動・考え・意志・思考・認知したことなどを表現するためのものです。あえて厳密に分類せず掲載しました。

2

「その他」の中には、数は少なくても  
注目すべき「気持ち」が含まれています。

その他1位. **はずかしい**

気持ち全体の0.3%と割合は小さいですが、多くあったひとつです。「性」「学校」「家庭」「自分自身」「部活」など幅広い場面で見られます。学校の部活や合宿での着替え、自宅で家族に裸を見られるなど、身体的な恥ずかしさが中心です。また、「好きバレ」「授業中の回答の失敗」「友達との会話の中での恥ずかしい出来事」など、日常の中での恥ずかしい経験をしたことも多く見られます。

- 自分の服装や容姿に「普通じゃないのでは」と感じる
- 自分の性に違和感がある
- 思春期に入り人の目線が気になり始めた

その他2位. **心配**

「心配」「心配してほしい」「かわいそう」などの言葉が多く寄せられました。「家族との関係」など、家庭に関するものが目立ちます。また、学校や友達に関する心配も多く、いじめや不登校、友達の体調やメンタル、受験や身体測定など、自分や他者を思うさまざまな心配が語られています。特徴的なのは、自分のことでなく、家族や友達を気づかう声が多い点です。

- お母さんが暴力を受けている
- 病気の親を介護している(ヤングケアラー)

その他  
の気持ち「その他」  
の中の  
上位3つその他3位. **もやもや**

「スッキリしない」「違和感」などのもやもやは、「不安」「葛藤」と近いけれど少し違う印象だったのでしょうか。「親から叱られた後の複雑な気持ち」「部活での理不尽さ」「先生の対応への戸惑い」「クラスや恋愛関係での微妙な空気」など、納得できない・引っかかる体験が背景にあるようです。自分の性への違和感、性的なことを考えてしまう自分に対する嫌悪感やそれでいいのかという思い、自己否定、「家庭」「学校」「交友」「自己理解」など多様な場面での言語化しきれない「もやもや」が表れています。